

令和6年度岡山県立玉島商業高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年2月18日（火）14:00～16:30

場 所：会議室（管理棟2階）

出席者：9名（委員11名中）

1 開 会

（1）会長挨拶

今年度の取組紹介

（2）学校長挨拶

2 生徒成果発表・質疑応答

1月12日（日）に玉島市民交流センターで開催されたタマシマリバイバルプロジェクトで発表した内容を、参加生徒が委員に対して発表する

3 令和6年度 学校評価について

①具体的な学校経営目標・計画最終評価について

今年度の内容について説明し、1～8の具体的施策についての総合評価を提案する

【提案】1：B（A） 2：A 3：B 4：B（A） 5：B 6：B 7：C 8：B

1および4については、委員より評価が厳しすぎるのではという意見があり、Aに変更

②学校自己評価アンケート結果報告

4 協議・意見交換（第2回内容を踏まえて）

学校運営協議会では、「どのような資質・能力を持つ生徒を育てたいか？そのために学校・家庭・地域でどのようなことができるか」という問いに対して、各自の立場で今年度できたこと、積み残したこと、または次年度できること、取り組んでいきたいこと

委員A

玉島商業高校の生徒たちが行っている活動については、本当に素晴らしい取り組みだと感じている。自分が今の立場になったことで、そのような活動を知る機会が増えたが、普段はなかなか知ることができない。しかし、高校生の活動をもっと多くの人に知ってもらいたいと強く思っている。

「今こんな活動をしているんだよ」と話題にすることもある。今日のような発表の場に来ない一般の方々には、なかなか情報が届きにくいのが現状である。一般の方々にも活動を知ってもらえるPRの場がもっとあればいいのではないかと考えている。

委員B

生徒自身が広告塔となり、「自分たちの学校はこんな活動をしている」「地域でこんなことをやっている」という情報を発信することで、地域とのつながりを深めることができるのではないかなと思う。こうした活動を通じて、生徒が自信を持ち、社会に対するイメージや理解を深めることにもつながる。地域に向けた発信だけでなく、校内に対しても働きかけるようなアクションがあれば、活動がさらに発展し、生徒自身の成長にもつながるのではないかと感じた。

委員 C

部活動の活性化。長年、部活動の顧問をしていただいている先生やプレイヤーとして活躍されている先生もいる。玉島商業高校から全国へ出場する生徒増やし広報する。

委員 D

羽黒神社の麓にある地域は、かつて「阿弥陀島」と呼ばれ、開拓を経て玉島の中心地となった。港だけでなく、玉島みなと公園や川崎みなと公園側のエリアも活用することで、イベントの幅を広げられる。また、かつて浅瀬の危険回避のため設置されていた灯台の歴史的要素を取り上げることも有益。さらに、玉島ガイド協会との連携を深めることで、地域活動を一層強化できると考える。

委員 E

「みなと湯」の鍵が開いたことは、地域活動において大きな前進であり喜ばしい出来事である。現在、朝市でイベントを実施しているが、商業高校との連携がまだまだ不十分のため、チラシ配布などを通じてコラボレーションを強化したいと考えている。また、SDGs 講座に参加する生徒以外にも地域の歴史や文化に興味を持つ機会を提供し、授業外でのボランティア活動や実践的な学びを促進することで、地域全体のつながりを深めてもらいたい。

委員 F

商工会議所の新たな方針として、従来の大人主体の活動から若者主体の取り組みに転換し、高校生や大学生の視点を尊重して地域の魅力を再発見・発信することを重視している。若者たちの思いを具体化し支援することで、将来的に玉島に住みたいと思える地域づくりを目指している。また、知識だけでなく実践を通じた学びを重視し、将来を見据えた深い考察ができる人材育成を学校にも期待している。

委員 G

高校生のプレゼンテーションやコミュニケーション能力の高さに感心している。これは学校教育によって培われた社会で必要な重要な力である。特に地域での実践的な活動を通じて、知らない人との交流がこの能力をさらに伸ばしている。公民館で高校生が防災アプリを使った津波避難体験講座を実施し、高校生が中心となって成功させた。このような取り組みを成功させる鍵は、担当教員の意欲である。今後、地域連携の窓口となる教員の存在が明確になれば、さらに効果的な協力ができる。

委員 H

地域連携担当者について、学校に必ず配置されているものの、その役割は地域からの多様なオファーを振り分ける調整役であり、必ずしも実行者ではない。実行者には若手教員も関わる可能性もあり、担当者が一手に担うと負担が大きくなるため、役割分担が重要である。また、地域と高校生と一緒に現場で学ぶ「特別活動」が重要であり、この活動を通じて生徒が地域課題を自分事として捉え、将来の進路を見通す力を養うことができる。特別活動は学校教育の柱の一つであり、商業高校としての専門性や資格取得と並ぶ重要な要素である。この協議会では地域のニーズを踏まえた人事に関する意見を教育委員会に伝えることが可能である。これは地域と学校が密接に連携し、商業高校が地域に存在する意義を強化するための重要な仕組みである。

会長

生徒と地域の関係者がまず出会い、魅力を知る機会を作ることが大切である。また、実践的な活動を通じて、地域とのつながりを深め、継続的なアクションに繋げることを目指している。具体的には、1年生のフィールドワークや地域のリソース（人や場所）を授業に組み込むための、

講師派遣や、特定の活動を通じた生徒への支援をしていただけないか。こうした取り組みを来年度に向けて計画し、地域との連携を強化していきたい。

委員 F

商工会議所が商業活動を支援する重要な役割を担い、高校生が実務経験を積む機会として、イベントや確定申告の補助などを通して簿記の実践的な体験などもできる。学校と商工会議所が連携するために、窓口を設けて調整し、地域活動への参加を促進する必要がある。

現代の効率化やエビデンス重視の時代において、感性を磨くことや正しさ、美的センスを大切にすることが大切である。特に商業高校のように AI やパソコンを使った専門的な学習が進む中で、人間本来の感性や「これでいいのか？」という感覚が疎かになりがちなのではないか。結果だけを追い求めることが社会や世界を悪化させる。感性の重要性が教育の中で反映されることを望んでいる。

5 令和7年度 学校経営計画書（案）について

- ・内部の強みと弱みを反映させることに注力。
- ・100周年をキーワードにして、学校全体の意識を統一し、生徒指導や教員間の連携強化。
- ・従来の進路指導に加えて、1年生や2年生からの大学情報提供を進めることの重要性。
- ・SNSを活用した情報発信の強化。
- ・学校の地元率が高く、今後も地域連携を強化し、100周年に向けて地域の支援を得るための努力を続けていく。
- ・外部とのつながりを深めるために、運営協議会やコーディネーターの存在が重要であり、この体制が学校の活動に大きな影響を与えた。来年度以降もこの関係を維持し、発展させていきたい。
- ・最終的な調整が必要かもしれないが、現在の内容で進めたい。学校経営計画書はトップダウン方式ではなく、教職員が課題を共有し、具体的な数値を交えて調整したものとして、皆で作上げたものとして進めたい。

6 令和7年度 学校運営協議会の運営について

来年度 学校運営協議会委員の依頼

7 連絡事項

8 閉会